

1. 特定家畜伝染病発生に備えた防疫資材管理・移送方法の改善

宇佐家畜保健衛生所

○澤野貴之・南部雪江・山口勝寛・(病鑑)内田雅春・(病鑑)長岡健朗

【はじめに】特定家畜伝染病の初動防疫において、防疫資材を効率よく管理し迅速に現場に移送することは、作業開始時間を左右する重要な要因である。大分県では平成23年2月の高病原性鳥インフルエンザ発生をうけて、平成24年に「大分県家畜防疫資材管理要領」を策定し、県内4家保などに防疫資材の備蓄を行ってきた。このたび、当家保に隣接する県農林水産研究指導センター水田農業グループ（水田農業G）の大型倉庫を防疫資材保管場所として使用できるようになった。そのことにより資材保管場所を基本的に水田農業G内の2か所に集約し、併せて効率的な資材移送が可能となるよう管理方法の改善を行ったので、その概要を報告する。

【従来の保管・管理方法】当家保では、これまで誰でも迅速かつ正確に防疫資材の積込ができるよう、防疫資材の表示方法や高温劣化を考慮した保管場所などの改善を行ってきた。しかし当家保では資材保管場所が6か所に分かれており、担当職員が不在の場合に的確な積込が困難となるおそれがあった。

【大型資材倉庫の活用】新たに使用可能となった大型資材倉庫は床面積が108㎡あり、当家保に保管している防疫資材の大部分が保管可能である。防疫資材をプラスチックパレット上に積載すればパレットごとフォークリフトで資材輸送トラックに積込可能となるが、この大型倉庫は入口の高さが約3mあるためフォークリフトを倉庫内に乗り入れることで直接トラックへの積込が可能となる。

【資材管理方法の改善】防疫資材を原則としてパレット上に積載するという前提で大型資材倉庫上にブルーシートを仮敷設し、資材をブルーシート上に作成したパレットサイズの各区画に積載した。それにあわせ、資材管理用の新規Excelシートを作成した。また管理ラベルは大きさを統一しラベル紙に打ち出し、輸送先ごとに色分けした。この管理ラベルには更新時期も表示した。なお、重ね置きが難しいスコップなどの資材はブルーシート外に重ねて保管した。また、動力噴霧機は定期的なメンテナンスが必要となるため、メンテナンスに備え家保敷地内倉庫に引き続き保管した。さらに一部の耐熱性の低い資材については、温度調節可能な家保研修館内に保管した。

【まとめ】今回、防疫資材の保管方法を改善し、大部分の防疫資材は2か所の倉庫に集約することができた。また、パソコンを活用した資材管理を行い、資材表示方法も統一した。今回の改善は、万一特定家畜伝染病が発生した場合、迅速な初動防疫開始につながるものと思われた。